

# 事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人埼玉情報センター

事業名 事例からノウハウを学ぶ、持続可能な高齢者の居場所づくり調査事業

## 1 事業の目的

シニアの居場所づくりを行っている団体は多数存在しますが、その多くが補助金やボランティア頼みで継続性に問題を抱えています。コミュニティづくりは一朝一夕でできることではなく、今後の超高齢者社会を支えるためには持続可能な高齢者の居場所づくりが急務になります。

そこで本事業では「10年以上運営しているシニアの居場所」を運営している団体から、継続するためのノウハウを得るべく、「シニアリポーター」が体験取材を行い、その内容を冊子や Web サイトで紹介。居場所を利用したいシニアや、居場所づくりをしている人に情報提供することを目的として事業を行いました。

## 2 事業内容

### (1) 事業の概要

本事業は居場所を取材する「レポーター養成講座」を県北と県南の2カ所で開催しました。そこで育成したレポーターなどを集めて冊子づくりのための「編集会議」を行い、それをもとにレポーターが実際に居場所の「取材」を行い、「冊子制作・WEBサイト制作」をして、幅広く情報提供を行いました。

実際に取材した居場所の何か所かを回るツアーを開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が出されたことから、オンラインでの交流会を開催しました。

### (2) 事業の流れ

#### ①レポーター養成講座

シニアの居場所を紹介するレポーターを養成する講座を開催しました。レポーターはリタイアした、もしくはリタイア後のセカンドライフを考え始めた50歳以上のシニアを対象とし、その後の冊子づくりを一緒にやってくれる人を募集しました。

募集にあたっては、チラシをつくり開催場所となるさいたま市と熊谷市・本庄市の公共施設にチラシを配架した他、居場所の運営に興味関心の高いであろう、埼玉県内のすべての市民活動支援施設にチラシを配架してもらい、さらにHPやSNSなどで広報した結果、21名（県北6名 県南15名）が参加しました。

講座はどちらも取材対象である「10年以上運営しているシニアの居場所」を会場にしたいと考え、県北では「café NINOKURA」「深谷シネマ」、県南では「カフェギャラリー南風」で開催。講師は県北は熊谷市市民活動支援センター所長でNAOZANEなどのメディアでライターをしている小林真さん、県南では埼玉新聞社編集管理幹の吉田俊一さんに依頼しました。

取材の仕方や写真の取り方、文章の取り方など多岐に及ぶ講座内容で、さらに当日は県北では深谷シネマ代表の竹石さんに、県南ではカフェギャラリー南風オーナーの山田さんに模擬取材を行い、取材の仕方を学びました。また、どちらの会場でも新型コロナウイルスの影響を鑑みて、会場だけでなく、zoomを使ってオンラインでの参加もできるようにしました。



熊谷講座 講師の小林さん



模擬取材の様子



講座のチラシ



さいたま講座講師の吉田さん



講座はオンラインでも開催



模擬取材の様子

## ②編集会議

講座終了後に、レポーターを集めて、今後の説明と取材先やスケジュールの調整、さらには取材内容の確認のための編集会議を開催しました。編集会議は11月7日に県北の熊谷市(熊谷市市民活動サポートセンター)、11月8日に県南のさいたま市(さいたま市市民活動サポートセンター)で開催、オンラインを併用し、県北では3名、県南では11名が参加しました。

## ③取材

養成したレポーター埼玉県内で10年続いているシニアの居場所17カ所を11月～1月にかけて取材し、記事を書いてもらいました。取材先はレポーターの希望に沿う形で行われ、原則的には2名以上+事務局参加で行われました。



## ④冊子制作・WEBサイト制作

レポーターによる記事に編集を加え、レイアウトデザインを行い、冊子を作製しました。冊子は3,000部印刷し、今回取材に行った居場所、埼玉県内の市民活動支援施設や社会福祉協議会、関連団体に配布。さらに同様の内容をHPにも掲載しました。



冊子表紙



冊子中面



ホームページ

### ⑤交流会の開催

冊子完成後に交流会を開催しました。交流会は本来は居場所を回るツアーという形で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を鑑みて、オンラインで開催しました。本来であれば2カ所回る予定でしたが、オンラインになったために、他の運営者にも話を聞きたいと声をかけたところ、7カ所の運営団体の方が参加してくださり、たくさんの意見交換やノウハウの共有ができる機会となりました。

### (3) 連携・協力機関

取材協力：カフェギャラリー南風、深谷シネマ、café NINOKURA、山ちゃんち、タカス・コミュニティ、さいたまシニアパソコン友の会、ヘルシーカフェのら、BABAlab さいたま工房、きらりびとみやしろ、宮代町福祉交流センター 陽だまりサロン、まちづくり相談処・油長内蔵、コミュニティカフェ幸茶店、コミュニティ喫茶 元気スタンド・ぷりズム、大人の学校、コミュニティカフェおひさま、介護者サロン 熊谷 ほっとたいむ、青いそら

交流会出演：カフェギャラリー南風、さいたまシニアパソコン友の会、ヘルシーカフェのら、BABAlab さいたま工房、きらりびとみやしろ、宮代町福祉交流センター 陽だまりサロン、コミュニティ喫茶 元気スタンド・ぷりズム、大人の学校

企画協力・広報協力：くまがや NPO センター、埼玉県内社会福祉協議会、さいたま市内コミュニティセンター、埼玉県内市民活動支援施設

### 3 成果及び今後の展開

冊子やHPへの情報掲載が2月からだったために、実際に居場所づくりなどを行いたい事業者への影響などの効果は今後出てくるものと考えられますが、レポーターへの効果はさっそく表れています。居場所づくりに関心があり参加したさいたま市在住の女性は自分の家でサロンにすることを決め、4月オープンに向けて準備に取り掛かっています。草加市在住の女性も、取材に刺激を受けて、現在行っているサロン活動を拡大するために空き家を借りる交渉を行っています。他にも取材後にもレポーターがその居場所のイベントに参加するなどのつながりができたケースも散見します。

さらに交流会での運営者同士の交流もありました。実際に自分で運営をとなるとなかなかなか手が離せずには他のところには行けず、お互いの近況などが分からないようですが、今回の交流会で「10年ぶりに再会した」という運営者同士もおり、貴重な情報交換とネットワークの機会となりました。また、BABAlab さいたま工房で行われている勉強会に3月にぷりズムの小泉さんが出演することになるなど、交流が活性化しています。これらの成果を活かすためにも、今後も情報の収集と発信、さらにネットワーキングは続けていきたいと考えています。